



福祉と住環境を考える

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 11F エイブルスL
TEL 06-6614-6800
mail@fukutech.sakura.ne.jp http://fukutech.sakura.ne.jp/

2016年12月
第91号

特定非営利活動法人
ふくてっく

これからの ふくてっく

理事長 小川 忠雄

八月六日、NPO法人ふくてっく第一五回(平成二十七年
度)定期総会を無事に終えま
した。

まずは二七年度も大きな
事故やケガがなく、みんな元
気に活動出来た事を何より
うれしく思います。

この一年を振り返って総
括すると活動三部会の活発
さが目立ちました。各部の年
間の動き、内容が見えるよう
になり会員も活動の目的や
方向性、目標がわかりやす
くなってきたのではないかと
感じています。

その安定した活動の基に
は安定した運営状態があり、
近年は新たな活動をする上
で、躊躇する事なく取組める
様になってきたことも、活動
が充実してきた要因かと思
われます。

これからも走り続ける「東
大阪部会」「こむねつと部会」
「つどい」に引張ってもら
いながら有意義な活動を続
けていきます。

事務局としては月一回(一
月を除く)の定例学習会を十
一回開催しましたが、そのう
ち会員が五回、外部講師が五
回とバランスよく担当する

ことになりました(一回は見
学会)。

ふくてっく会員の層の厚
さというか、いろいろな方々
が関わっていることが何え
ます。会員の知識向上にも大
きく貢献、有用な内容として
これからも充実に努めてい
きます。

さて、各部の活動について
は「東大阪部会」は行政の委
託事業ですので活動に大き
な変化はなく安定した活動
となつていきます。東大阪市以
外にも寝屋川市において介
護保険住宅改修支援事業が
始まり、事業者登録研修会を
当会が行うことになり、これ
までの活動に新たな取り組
みが増えました。また先を見
据えた活動の準備として障
がい者グループホーム調査
にも着手しました。現状を知
るにつれ問題が多いと感じ、
これからの様に進めて行く
くかが重要になってくる活
動です。

「こむねつと部会」につい
ては「四つの矢」を打出して
走り出したものの、残念なが
ら次年度に成果を持ち越し
た部門がありました。これか
らの社会において重要なテ
ーマを持つて取組んでいる
ことから、容易ではない面は
あるものの、ふくてっくだけ
で進めるのではなく他団体
や個人を巻き込んだの検討
や協力体制など、まだ準備段
階の部分も多くあることは
認識しています。「地域福祉
の推進」をテーマに「四つの
矢」が絡み合い、関連を持つ
て進めていく事で更なる成

果が得られる事から、多くの
期待を持ってこれまで以上
の準備をし、次年度実施を目
指していきます。

「つどい」については新し
い木工活動の開拓が進めら
れました。各要望や対象とな
る子供達に対して様々な形
式での木工が提供出来る
ようになりました。しかし、

この活動も単年で終わって
しまつては意味がなく、継続
する事を重要事項として次
年度も計画がされています。

そしてつどいのもう一つ
の大きな役割である会員の
活動機会の創出についても
いろいろなタイプの活動を
準備して多くの会員に「も
のづくり」を体験してもらいた

いと思います。

と、次年度以降も希望を持
つて先を見据えた活動を心
がけて計画しています。今後
もこの三部会が中心となつ
てふくてっくの多方面への
活動で会全体が、そして会員
が活発に元気になっていく
姿を見て頂きたいと思いま
す。



画：中北 清

菅田八幡宮 (こんだはちまんぐう) 羽曳野市

応神天皇を主祭神とし、古くから応神陵の近くにあつて、御陵祭祀を司ってきました。毎年9月の大祭は 応神天皇陵と菅田宮のゆかりの深さを物語る神事として知られています。応神天皇の諱(いみな)は、菅田別尊(ほんだわけのみこと)と呼ばれ、現在の羽曳野市菅田にゆかりがあるとされています。

ふればの 見学会

平成二八年九月三日
ふくてつく九月例会を
今春完成した『ふれば
の』(西宮市地域共生会
館)で開催した。ふれ
ぼのは、前号にも紹介
したように、西宮市社
会福祉協議会の運営に
よるもので、重症心身
障害児・者支援を中核
としながら(青葉園)、
地域のあらゆる福祉課
題に、市民の協働参画
を得て、地域福祉の推
進を図ろうとする拠点
である。

地域には、これまでの
福祉が認識してきた高
齢・障がい・児童とい
った区分概念では測れ
ない多様な課題が複層
化しており、そうした
今日的な克服課題には
一方的な支援によって
は対処の限界を超えて
いる。そのような観点
で整備されてきた各種
の制度や行政施策は、



積み重ねを繰り返しながら肥大化し、既に制度疲労も顕著になりつつある。
今後は、誰かが誰かを支えるのではなく、誰もが主体的に参加し支え合う社会づくりが求められている。すなわち「できないこと」に着目してこれを補おうとするのではなく、「できること」に着目して互いに支援し合う文化と仕組みを構築しなければいけない。そのようにして、町全体をエンパワメントしてゆくことが肝要であり、ふればのは、まさにその象徴たらんと

している。
九月三日、私たちはふればを訪れ、当日の通所メンバーと「ボッチャ」に興じた。「ボッチャ」は、パラリンピックの正式種目にも認定されており、先のリオでの日本チームの大活躍は記憶に新しい。障がいの有無軽重を問わず参加できるものであり、つい夢中になってしまふ。私たちも大人げなく本気になって、とうとう勝利してしまつた。本稿では、粗文を重ねるより参加メンバーの笑顔をご覧いただきたい。
(中北 清)

「ボッチャ」はどれだけ多くのボールを的(ジャックボール)に近づけられるかを競う競技です。



ねらいをさだめて。とどけ～！！



投げられない選手は「ランプス」を使ってボールをころがしての的を狙います

こむねっと部会

■ 福祉サービス第三者評価の展望

福祉サービス第三者評価は、制度の開始から既に 10 年余を経て、ようやく振興の兆しも見えるが、まだまだその認知度は低く、福祉サービスの質の向上と福祉情報の透明化を通じて地域福祉の増進に寄与する効果にはほど遠い。当会でも、過去 10 年余をふり返ると、評価の実績は微々たるものにとすぎず、忸怩たるものがある。しかしながら、本年度はすでに障がい者入・通所支援施設の評価をまとめ、続けて児童養護施設 1 件と障がい者通所支援施設 1 件の評価に着手しており、にわかにも多忙を極めていた。低迷していた間も評価調査メンバーの拡充と研修を怠ることなく、評価機能をむしろ高めてきた努力を自負するところである。

社会福祉事業は、めまぐるしい社会構造の変化や、それに伴う頻繁な制度改革の中で、さらに利用者や保護者の高齢化や、新世代の就労意識の変化、雇用環境の課題等々、困難な課題が山積している。加えて、社会福祉事業者とりわけ社会福祉法人を見る市民の目も従前とは一線を画すものがあり、いわゆる社会福祉法人制度改革も急がれる。福祉サービス第三者評価の各評価項目の改善もさることながら、事業理念や基本方針、地域共生、職員教育、事業継承などといった本質的な革新が避けられない。

福祉サービス第三者評価は、そうした時代背景のなかで、単にサービスの質の向上を後押しするというに留まらず、激動化にある事業者の体質を根本的に改善することに寄与しなければならない。

しかるに、評価機関・評価調査者のレベルはいかがだろうか。「abc」評価のバラつきや甘さは一方向に改まる気配がない。当会は、多くの評価に取り組むことはできないが、だからこそ一つひとつの案件に真摯に向き合って、そうした風潮に一石を投じて福祉サービス第三者評価事業の意義を社会に認知させるよう頑張りたい。



やすらぎの丘・たかとりワークス外観

■ 障がい者の地域移行を支える活動の模索

障がい者の地域移行が叫ばれて久しいが、その振興は難しい。一例として障がい者のグループホーム（以下「GH」）を取り上げると、施設解体の流れや利用者や家族の高齢化が相まって、開設需要は益々高まろうとしている。また、これまで民家等を利用してきた GH も、建築基準法や消防法の厳格化とともにその存続が危ぶまれ、近年では新築による供給も稀ではない。しかしながら建設物価の高騰は、障害年金で生活できる限界を超える様相を呈しており、まして地価の高い都市部での建設は不可能に近い。そこで、再び既存建物の活用が課題となるが、前述した、建基法・消防法の課題解決以上に困難な障壁は活用可能な物件発掘の難しさである。

一方で、都市部における空家率は 3 割に上がろうとしている。その多くは放置され社会問題と化すレベルで、不動産情報にも顕在化してこない。むしろ不動産情報に流れ出た物件は、すでに福祉活用に向かない事情を抱えていることが多い。

そこで、当会の新たな活動展望として、都市部における空家管理を業として興せないと考えている。そのことによって、物件情報を先取りすることができ、福祉活用ニーズにも

迅速に対応することができる。そのうえ、空き家管理そのものによって、念願の専従職員を確保することも可能となり、まさに一石二鳥の策と言える。さてしかし、当会メンバーには商売下手という共通の特質がある。どうしたものか、お知恵を拝借したい。
(中北 清)



そうだん

くらす

はたらく すごす

たかとり周辺map
(奈良県手をつなぐ育成会HPより)



東大阪部会 研修会風景

《平成28年度 東大阪市介護保険住宅研修会に参加して》

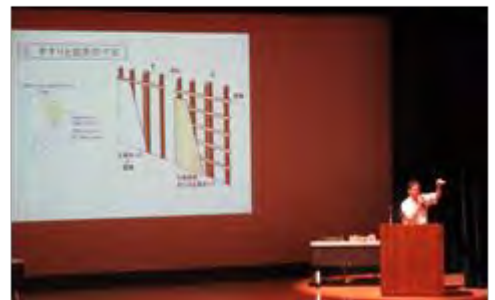
このところ、東大阪住宅改修の事前検証に伺うと手摺設置予定箇所にマスキングテープを貼っていることが増えていることを実感いたします。これも研修会にご参加いただいた業者の方々が研修後、対象者やご家族の方々に計画をご理解いただくために取入れてくださっているのかと思います。8月24日、東大阪市介護保険住宅研修会「喜ばれる住宅改修をめざして・『第一部 スムーズな手続き、適切な計画』」の講師を初めて担当させていただきました。

はじめに、東大阪市の高齢者人口のしめる割合、介護保険認定を受けて住宅改修を行う件数など現状を報告し、介護保険を利用した住宅改修について話を進めていきました。在宅生活を支援する工事ということで『ケアマネジメントの一環としての住宅改修』である事を強調し、特に住宅改修は「理由書」が『要』で「理由書」あつての住宅改修であるので計画をたてたら必ず動作検証をし「理由書」と不整合がないかどうかを確認することがとても大切である事をお話いたしました。私たちが検証に伺った際にもこの「理由書との不整合」は、特に注意して確認するポイントです。残念ながら現地改善目的のために不足している計画は、非常に多く見受けられます。

続いて、見積書作成時の注意点などについて詳細に説明させていただき第一部は、終了いたしました。

この制度を有効にご利用いただき住み慣れた我が家で1日でも長く快適に過ごしていただくためには、計画や施工に携わる施工業者の方々が制度について十分理解した上で計画していただくことが非常に大切な事と思います。先にも延べましたが、少しずつではありますが改修の内容、対応が改善されつつあることは事実です。

30分という短い時間ではございましたが、業者登録の為だけの研修ではなく、制度の志を共有する場となったであろう？と期待し、今後共この研修を続けていくことの大切さを感じました。
(寺岡 春恵)



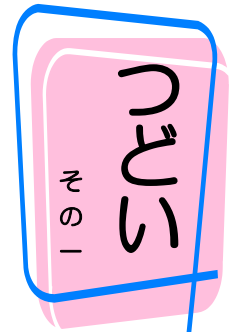
《平成28年度 寝屋川市介護保険住宅改修給付券方式施工登録事業所研修会及び

介護支援専門員対象研修会に参加して》

9月2日、寝屋川市で行われた表題の研修会に午後から参加いたしました。内容は、午前、午後とも同じで、第一部『介護保険住宅改修に求められるもの』、第二部『計画時に注意すること』ということで、午前は、清水会員、山本会員、午後は、曾我部会員、川北会員の担当で、お話を伺うことが出来ました。寝屋川市は、昨年は施工業者のみの参加で研修が行われましたが、本年度は、介護支援専門員の方にもご参加いただきました。介護支援専門員のご参加につきましては、更に見識を深めていただければということだったのですが、ご参加いただいた介護支援員の方々の介護保険を利用した住宅改修に対する意欲が感じられました。

施工業者は昨年度の研修以降、見積書や計画書の作成等で改善が見られました。また当会のアドバイスもあり、寝屋川市では今年4月より介護保険住宅改修の申請書類/見積書の書式を様式化されました。その結果、見積金額の把握がスムーズに行え、事前申請の確認作業の効率化に繋がっていると担後は、寝屋川市でこのような研修の機会を頂けるのであれば、介護支援専門員の方々とグループワークなど開催できればと思います。
(寺岡 春恵)





病院内学級 (木工体験)

九月十四日(水)、大阪市立総合医療センターの院内学級での木工授業に参加しました。この病院でふくてっくが木工授業を行うのは二回目ですが、私は今回が初参加です。

授業は十時半〜十一時十五分ですが、準備と健康チェックのために九時十五分に集合しました。小学生の小さい子ども達と中学生の大きい子ども達、合計二十三名が二つの教室に分かれて作業します。ふくてっくは十一名で私は小さい子ども達の教室を担当しました。子ども達二〜三人が座るテーブルに、ふくてっくのメンバーが二人ずつ付きま

サンプルもいくつか並べています。

私が担当したテーブルには、小学校二年生くらいの子(正確には未確認)女の子が二人座っていて、一人の子は積極的に次々と材料をボードでつなぎ合わせていき、あつという間に独創的なタワー状の作品を完成させていました。もう一人の子はなかなか作るものが決まらずに材料を並べて見つめるだけでしたので、サンプルをいくつか持って来て「こんなのはどう?」と順番に見せていったところ、板に丸い木端を二個貼り付けて丸い所に顔を描く・・という作品を作ることにしたようです。ボードで材料を貼り付けてマジックで顔を描くという作業までやつたところで、検査の時間となり彼女は退室し去ってしまいました。なので、ドアや壁につるせるようにヒートンをつけてリボンを通すまでかわりにやっておきました。完成した作品を気に入ってもらえればいいな...と思います。

一つのテーブルにかかりきりになつていたので、全体の様子を見渡す余裕がありませんでしたが、最後出来上がった作品を見ると、それぞれ作った子のこだわりが表れているようで面白かったです。こだわるところが皆それぞれ違うんだ・・と当たり前のことですが改めて感心させられ、私自身も楽しかつ

たです。(疲れましたけど...)
また次回も参加したいと思
っています。(山本尚子)



素敵に出来ましたよ !!

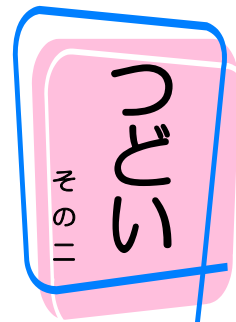
昨年に引き続き院内学級の活動ということで、随分と気持ち的には余裕を持つて取組め問題なく進められたのではないかと思つています。ただ、残念な事として、今回もなかなか工作に取りかかれない子どもがいたことと、その子どもへの声かけの対応等、もう少しうまく出来たのではないかと少し反省しています。

その後、院内学級の先生からも「サンプルがもう少し多ければよかったかな?」という感想を頂きました。続けて活動する事でいろいろな事を学ぶ事ができ、私たちも成長する事で、また更に一歩進んだ木工作ができます。入院している子ども達にとつて貴重な体験としてこれからも続けていければと願っています。

(小川 忠雄)



「なにをつくらうかな・・・」「こんなのどう?」



五時間共生・共走
リレーマラソン
&
体験コーナー

五月二十九日(日)に鶴見緑地公園での「二十三回五時間共生・共走リレーマラソン&体験コーナー」に参加しました。このイベントは「大阪障害者労働センター・マツサク」を初めとした障害者団体が主催するものです。当日は午後から不安定な天候になることが予測されていましたが、午前中は大変良い天気となり汗をかくほど暑くなりました。

木工活動に十七名(ランナー七名含む)も参加いただき、人数は十分と思っていきましたが、それをはるかに超える子ども達が始まり早々押しかけ、今回は五時間間通して大変忙しい活動となりました。



予測できない子供たちの作品との出会い

つた上での準備だったのですが、新たに材料の種類を増やし、またツールもいろいろと用意したことで、作品のバリエーションが多くなり、子ども達の発想力に関心する一方、その対応に追われる形となりました。

今年の反省点として、昨年の延長線上でパーツ工作をメインに端材を組み合わせた加工はバックヤードでこっそり対応して思っていたのですが、大きく、長い材料を用意した事から、加工を求める子ども達が多くなってしまいました。



第23回
5時間共生・共走リレーマラソン

7名のランナーで5時間をつなぎました。
今年のテーマは「だれもがともに！共生に乾杯！」

「ものづくりの原点」に立ち対応したことで現場は大変混乱してしまいました。今回は工具もあまり用意しなかったことから工具待ちの状態も発生しこちらも反省です。

大会から与えられたスペースを無視してどんどん作業スペースをひろげて体験コーナー内でのふくてつくのスペースは半分以上となりました。

そのコーナーでは昨年に引き続き「昔遊び体験」「昔のおもちや」の方々もいて、「今年はずいぶん楽しい良い経験やな」と声をかけて頂き、これからも協力して子ども体験を続けましょうと話していました。

(小川 忠雄)



「どんなのつくろつかね？」ものづくりのベテランたち

熊本地震復興

春岡 須磨子

会員コラム

福岡に住み始めて4年目の春、熊本地方に大きな震災が起きました。4月14日午後9:26分以前震、同月16日午前1:25の本震 その後4月だけでも千回を超える地震が観測されています。

地震から半月ほど経ったころ熊本へ入りました。益城町では多くの家屋の倒壊、川沿いの住宅では右に左にと倒壊、お寺の本堂は1階部から崩落、道路のいたるところ亀裂、段差が生じており、田畑も例外ではなく大きな亀裂が走っています。次に田植えが出来るのはいつになるのだろうか…茫然としてしまう光景がそこにはありました。ブロック塀の倒壊が多くあり、もし通勤、通学の時間帯に地震が起きていたらと思うとさらに怖い思いがします。そんな中、気づいたことがあります。倒れたブロック塀のとなりに樹木や生け垣が何事もなかったかのように存在しているのです。

今回の地震では宅地被害が多くみられます。家屋は修復可能なようでも擁壁に亀裂、破損が生じて「危険宅地」となっていて、そのまま住み続けるのは危険なところも多くあります。あるご老婦人は「夜は仮住まいですごしているけど、昼間は家に戻っている」そうです。「やっぱり知り合いのいるところが良い」「心強い」と。ある擁壁は宅地4~5件にまたがり高さも4m以上もあり一部張らんたり、亀裂もあり上部にはズレが生じています。個人の力で何とかすることは困難です。地域の問題として考えていく必要があると思います。

右：擁壁の損
右下：本殿の倒壊
下：田んぼに走る幾筋も亀裂



熊本市において自分たちの「まちづくり」がスタートした「椿が丘復興支援ハウス」を紹介します。4月下旬、ひよんなご縁から椿ヶ丘のひとつとちとの付き合いが始まりました。地域の公民館が被災して使用できない中、その地域でキーパーソンとなる方が家を解放してくださることになり、椿が丘に復興支援ハウスが誕生しました。

はじめての集会ではひとりひとりが不安を語りました。地震当夜は家の中で過ごすことは怖くて出来なかった。近くの畑で猿団子のようにになって一夜をすごしたことや前震のあと筆筒のない部屋で就寝して助かった、避難経路が経たれて2階から跳び降りてけがをされた人も。地域を走る水路や擁壁に亀裂が生じていることや被災状況など多岐にわたりました。相談会では行政の手がまわらない中、建築士ということで皆さんも不安等を話されたように思います。また、住民の方の情報共有の場でもありました。

集会も回を重ねていく中で、ただ元の姿に戻すのではなく、安心して暮らせるよう安全なまちづくりが必要との声が上がります。倒壊したブロック塀を同じよう造っても、また倒壊して避難経路の遮断、緊急車両も入ってこれない。

そこで「まちづくりのワークショップ」を開催。震災をきっかけにはじまった「自分たちのまちづくり」です。メインの通りのブロック塀は高く積まずに見通しを良くしていこう。緑豊かな・安心なまちづくりを！お隣の塀も震災で倒壊したことを機にもう高い塀はいらない、宅地の高低差分必要最低限の1段か2段にしようということをお隣同士で相談されています。災害にあったひとたちの心がひとつになっています。

12月には忘年会を開催。準備は皆さんと語らいながら一緒に。仮住まいで椿が丘を離れて暮らしている方々とも久しぶりの再会です。ある年配のご夫妻は「これからは新たな出発です」と写真館で撮った記念の写真を見せてくださいました。

震災から8か月、屋根にブルーシートの住宅も多い中、解体も徐々に始まり町の様子も少しずつ変わってきています。まだまだ復興半ばです。これからも地域の皆さんに寄り添った応援をしていきたいと思います。



「おのりのお客様」の会話 十三

秋岡 安



客：配偶者控除の改正のニュースがあったね。
私：政府税調で見直しの議論がありましたね。
客：そもそも配偶者控除って何？
私：所得税の計算は①収入ー経費②所得③所得ー所得控除④課税所得⑤課税所得×税率⑥税額⑦税額控除⑧納付税額です。配偶者控除とは②の所得控除の一つです。配偶者の所得が一定額以下すなわち三八万円以下の場合に控除できるものです。給与収入に換算すると一〇三万円以下となります。

客：一〇三万円となる計算根拠は？
私：個人の商売人の場合は事業収入ー事業経費②事業所得です。サラリーマンの場合は給与収入ー給与所得控除③給与所得です。給与所得控除はサラリーマンの必要経費のことですね。ただ給与所得控除は給与収入の金額に応じて決められています。最低でも65万円あるので、三八万円十六万円④一〇三万円となる訳です。

客：なるほどね。その一〇三万円が問題？
私：そうです。この一〇三万円を超えるとご主人の税金がアップするので、それ以下にする人が多いのです。私も関与先の社長が十二月になるとパートナーさんが時間調整をするので、段取りが大変だと嘆くのをよく聞きました。

客：それが一〇三万円の壁なんだね。
私：この一〇三万円を超えても「配偶者特別控除」というのがありますが、勤務先が家族手当の支給基準を一〇三万円以下としているところが多いのです。税金が増えてかつ手当も減るので一〇三万円以下にする人が多いのです。

客：そうなんだ。でも改正されそう？
私：どうでしょうか？難しいでしょうね。

■ H28年6月以降 学習会

- 7月 「障害者差別解消法」
講師：石田 義典氏
NPOちゅうぶ 理事・事務局長
- 8月 総会
ミニ学習会「3部会活動内容発表」
- 9月 「ふれぼの」見学会
ぼっちゃ大会開催
- 10月 「ふくてっくの木工活動を知ろう」
講師：小川 忠雄会員
- 11月 「楽しく使える色彩心理効果」
講師：荒井 知恵氏
オフィスApplan
- 12月 「これからの日本
リハビリの視点から見た和と暮らし」
講師：湯川 直紀氏
(株)ライフケア創創研究所 代表取締役



■ H28年度 定例会・学習会予定

- 1月7日(土) 13:30~17:00頃
会場：大阪市立社会福祉センター
親睦会(学習会なし)
- 2月14日(土) 13:30~17:00頃
会場：大阪市立社会福祉センター

ことば・コトバ

【ファシリティドッグ】

病院などで難病の子どもやその家族に愛情と安らぎを与えるため、専門的に訓練された犬のことです。特に子どもは動物を抱きしめることが大好きで、ストレスを減らし元気づける効果があります。
しかし、ファシリティドッグのトレーニングセンターは日本にはありません。

和泉秀子

◆ 外部連携 ◆

・平成二十八年
十月二十三日ボラ
協連続セミナー
中北会員と佐藤会
員が参加しました。

・平成二八年大阪宅老所・GH
連絡会3回連続講座
『最後まで地域で暮らし
ていくために〜すまいと地域は
どうあるべきか〜』
①十月九日「高齢者の住まい
とケアのゆくえ」 ②十月三
十日「大阪での問題提起」
③十一月二十日「夢を語る」
小川会員・中北会員・清水
会員・鎌田会員が参加しまし
た。



・平成二八年十一月二十三日
第七回「東北・関西・九州
ホジティブ生活文化交
流祭」が長居公園自由広
場で開催されました。
また、前日二十二日には
前夜祭「障害者・支援と
避難」BCP研究発表会
が開催され、中北会員が
参加しました。

- ★ 十一月十八日
富山県海望福祉会訪問研修
参加者二十名
- ★ 九月プリジエクターとパソ
コンを購入
- ・平成二七年度第一回理事会
平成二八年七月二日
- ・平成二七年度第二回理事会
平成二八年八月六日
- ・平成二八年度第一回運営会議
平成二八年十月十五日
- ★ 理事会・運営会議 開催状況
平成二七年度第一回理事会
平成二八年七月二日

…事務局より…

NPO 法人ふくてっくとは・・・

ふくてっくには、建築・医療・福祉分野の有資格その他、多岐に亘る専門職が参加しており、お互いの専門領域における見識と誇りを大切にしつつ、相互の研鑽しあう機会を育てています。キーワードは「生活者の視点、当たり前感覚です。」是非あなたも仲間に入って、自らの人生を耕しませんか。一度、定例会(原則：毎月第1土曜日、13:30~)にご参加ください。定例会では、会員の活動報告や講師を招いての学習会等を行っています。正会員以外の方が定例会に参加される場合は、参加費500円です。

*会費：入会金/無料

：年会費/正会員 10,000円、学生会員 3,000円、通信会員 500円

*連絡先：TEL 06-6614-6800

ホームページ <http://fukutech.sakura.ne.jp/>

メールアドレス mail@fukutech.sakura.ne.jp

